

[成果情報名] 高温・長日処理によるイチゴ四季成り性実生個体の確認

[要約] イチゴ交配実生は、最低室温 18℃ 以上 16 時間日長条件下において播種後約 150 日で四季成り性個体を早期に確認できる。

[担当] 総農セ・生物工学部・資源開発科・加藤成二

[分類] 研究・普及

[課題の要請元]

[背景・ねらい]

夏秋どりイチゴ品種育成において四季成り性形質は、最も重要である。育苗期にこの形質の選抜が可能になれば、圃場面積および管理労力の削減が期待できる。これまでに最低室温 15℃ 以上 16 時間日長下において播種後約 230 日で選抜できることが明らかとなっている。そこで本県冬春期の交配実生における四季成り性個体確認に要する期間の短縮について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. イチゴ交配実生苗は、最低室温 18℃ 以上 16 時間日長下で栽培管理すると四季成り性形質を有する個体のみが開花する（表 1）。
2. 確認までの目安は、2 月播種で開花株数が増加しなくなる播種後約 150 日である（図 1）。
3. 開花確認後に定植することで、効率的な四季成り性個体選抜が可能となる。

[成果の活用上の留意点]

1. 播種後 2 ヶ月以内（葉数 4 枚程度）は、最低室温 12℃ 以上で管理する。
2. 四季成り性を確認するためには、既存の四季成り性実生品種を対照として供試する。

[期待される効果]

1. 早期の四季成り性個体選抜が可能となり、品種育成において圃場面積および管理労力の大幅な削減が期待できる。

[具体的データ]

表1 18 ・16時間日長処理株の2年次における四季成り性について

系統名	1年次		2年次	
	開花状況	株数	四季成り性株数 ^{*)}	四季成り性株率(%)
エラン自殖実生	開花	20	20	100.0
とちひとみ自殖実生	開花	20	20	100.0
	未開花	19	4	21.1

注) 高温・日長処理は1年次に当センター本場内の温室で行い、処理後に高冷地分場へ定植し、慣行栽培を行った。

「エラン」および「とちひとみ」は、四季成り性品種である。

* : 四季成り性は、夏期の連続結実により確認した。

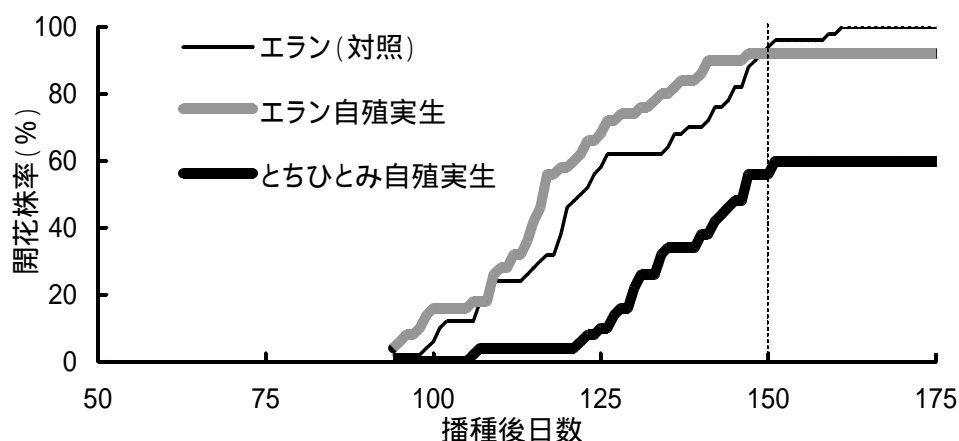


図1 18 ・16時間日長におけるイチゴ各系統の第1花開花株率の推移

注) 高温・日長処理は、当センター本場内の温室で行った。

[その他]

研究課題名：野菜・花きのオリジナル品種育成と栽培技術の確立

1. 夏秋どりイチゴの新品種育成と良品・安定生産

(1) 良食味な夏秋どり品種の育成

予算区分：県単(重点化)

研究期間：2006～2007年度